



〈研究〉『うゝ えあ・ぎるど』ノ經濟史的研究(2)

津田, 武二[稿]

福田, 徳三(校訂)

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 27(4):613-630

(Issue Date)

1919-10

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053105>



『ぐえあ・ぎと』ノ經濟史的研究 (其二)

津田武二 稿

法學博士 福田徳三 校訂

一、『ぐえあ・ぎと』ノ經濟史的意義……………

二、めーとらんどノ結論吟味……………

三、原始氏族單位愚考……………

四、臺灣蕃族ノ社會體制……………

五、『ぐえあ・ぎと』ノ貨幣トノ聯想……………

六、『ぐえあ・ぎと』ト社會組織トノ關聯……………

既載

本號所載

未載

四

事實ヲ臺灣ニ於ケル蕃族ノ慣習ニ徴シテ、原始人類ニ存在セシ平和團體ニ對スル贖罪制度ノ意義ヲ思索スル便トシタイ。茲ニハ研究ヲ限局シテ、其ノ習俗タル嫁娶婚ヲ本則トスルヲ以テ注目スベキ、たいやる族ニノミ關涉スル。(引照文ハ臨時臺灣舊慣調查會第一部蕃族慣習調查報告書(一)大正四年二月十日發行本ノ第一卷第一編ヨリ採ツタ。)

先ヅ血屬團體ヲ觀ルニ、たいやる族ニ於テ「家」ヲ組織スルモノハ家族デアル。(前掲報告書(一)八九頁) 彼等ガこゝとふ・もるほート稱スルモノ之レデアツテ、其ノ謂ハ同一祖先ヨリ降下セル血族即チ共祖ヲ指

シ、他ノ親族トハ親族タル効力ヲ異ニスベク、宗族ト外親トモ謂フベキ區別ヲ立テテ單位ヅケラレルノデアル。而シテ其ノ血屬單位ノ大キサハ、男系又ハ女系ノ單一元ニ限ラル、ニ非ズ、男系女系ノ兩元ニ互ルベク、蓋シ「男系ノ血族ト雖モ他ニ出贅シタル者ノ子孫ハ此關係ヲ脱スベク、女系ノ血族ト雖モ家ニ留リテ招婚ヲ爲シタル者ノ子孫ハ尙ホ此關係ヲ有スル」トイフ(報告書一、八八頁)。此ノ點支那法ノ宗族ト相異スルノデアルガ、シカモ本族ニ於ケル婚姻ハ、嫁娶(女ガ男家ニ入ル)ヲ本則トシ、招婚(男ガ女家ニ入ル)ヲ變則トスル故ニ、所謂宗族ノ關係ハ男系血族間ニ生ズルコトガ多イト謂ハレル(同上頁)。乃チ血屬關係ハ父母兩系ニ追隨シテ縱橫ニ擴張スベキ理デアルガ、却ツテ實際ノ團結ハ男系血族ノミヲ中心トシテ結束シテキルノデアル。(此ノ考察ハ本稿第二項ノめーとらんど又ぶるな一ノ所見ニ參考トナルデアラウ)

斯ク宗族ヲ血屬團體トシテノ一個ノ單位ト見做ス爲ニハ、如何ニ宗族ガ義務ヅケラレヲルカ、此ヲ詳知シナケレバナラヌ。就テ見ルニ宗族ノ義務三アリ、第一ハ、萬事萬般特ニ財産關係上相互ニ扶養シ援助スベキ義務(註五)、第二ニ、出贅又出嫁シタル男女ニ對シ、例之其ノ故ナク虐待ヲ受ケタル際ニ其ノ罪ヲ對手ナル他家ニ向ヒ問フベクシテ、既ニ實家ノ宗族ニ非ザル者ナルニ猶之ヲ保護スル義務アリ(註六)、更ニ第三ノ義務トシテ、他人ニヨリ殺害ヲ蒙ル者アルトキハ、其ノ意思ノ善惡ヲ問ハズ加害者ニ復讐スベシ。若シ加害者ガ同族ナル場合ニハ贖財ヲ以テシテ、然ラズ異種族又敵蕃ナレバ出草ニ訴ヘテ以テ結局スルト定メラレテキル(註七)。

(註五) 第一 扶養及ビ互助ノ義務 宗族ハ其共財(兄弟姉妹家ナ別ニシ未ダ財産ヲ分タザル場合)タル間ハ勿論其宗族ヲ分割シ

タル後ト雖モ相互ニ扶養シ援助スルノ義務ナ有ス。(一)同族中ニ妻ヲ娶ルニ聘財足ラザル者アルトキ或ハ不法行爲ヲ爲シ族衆及ビ被害者ニ對シテ贖財スヘキ場合ニ其財賁ニ窮乏スル者アルトキ……(二)縁寡孤獨ニシテ自贖スル能ハザル者アルトキ……(三)其他日般ノ事項ニ關シ吉凶相慶弔シ艱難相援ケベキ義務ナ有スルモノトス(報告書一九二頁)親族關係ノ效力第三項宗族互助ノ義務)。

(註六) 第二 他家ニ入りタル親族ヲ保護スル義務 出嫁シタル婦女ハ既ニ實家ノ宗族ニ非ズト雖モ其實家ノ父母兄弟及ビ近親ハ之ヲ保護スル義務アリ。若シ嫁女ガ夫家ヲ逃レテ生家ニ歸ルトキ……夫家ニ過失アルトキ、例ヘバ夫若クハ其父母ガ故ナク妻ヲ毆打シ虐待シ又ハ夫ガ他ノ婦女ト關係シタルトキノ如キハ女ノ實家ハ夫家ニ對シテ其罪ヲ問ヒ贖財ヲ討取スルコトヲ得ベシ。出養ノ子女及ビ出贅ノ男子ガ婚家養家ニ於テ虐待ヲ受ケ又ハ非理ニ殺傷セラレタルトキ亦同シ(同上頁同項)。

(註七) 第三 復讐ノ義務 故殺ト誤殺トヲ論ゼス他人ニ殺害セラレタル者アルトキハ其親子叔侄兄弟從兄弟ノ如キ近親ハ加害者ニ對シテ復讐スベキ義務ナ有ス。加害者ガ同族ナル場合ニハ直ニ逃走シ其近親ヨリ頭目又ハ有力者ヲ介シ被害者ノ遺族ニ對シ贖財ノ申込ヲ爲シ之ニ依リ其局ヲ結ブチ多シトス。若シ加害者ノ方ヨリ贖財ヲ爲サザル場合ニハ被害者ノ宗族ハ社衆ヲ糾合シテ加害者ノ家ヲ襲撃ス。又加害者ガ異種族又ハ敵蕃ナルトキハ被害者ノ一族ハ其地ニ向ヒテ出草ス。此場合ニハ必シモ加害者ヲ求メテ復讐スルヲ要セズ異種族又ハ敵蕃ニ屬スル者ノ首級ヲ攝取スルヲ以テ足ル。若シ一ノ首級ヲ攝取スルコト能ハザルキハ敵地ノ境界ニ至リ其部落ニ向ヒ空砲ヲ放チテ歸來ス(同書一九三頁)。

如上ノ集團現象ヲ按ズルニ、其ハ血族互助ノ心ニ發シ、隨ヒテ親族關係ノ當然ノ効力ト成リテ、謂フ所ノ宗族ガ平和保持外敵防衛ノ團體タル實ヲ確保シタノデアル。而シテ其レノ具現ハ贖財又出草ノ制度ニ求メ得ル(本頁後段參看)。又ソノ故ニ該制度ヲ以テシテ、假令既ニ分割サレタル「家」ニ或ハ已ニ他家ニ縁ヅキタル者ニマデモ、猶親族關係ノ實効ガ及ボサルルヲ觀ルニシテモ、其レコソ *ad hoc* ナル團體ト觀念スベク、否カ、ル反對ト觀ラルル)現象アルガ故ニ、却リテ血屬の平和團體ノ核心ガ與ヘラル、ヲ以テ、「宗族」ラバー——特ニ男系血族ノミノ團結ナレバ愈々強カルベキ、一個ノ單位ト念フベクナル(此ノ一條ハ別項氏族單位愚考ニ念ヲ押シタノニ止マル)。

翻ツテ、蕃族ノ社會中ニ就キ謂ハユル、蕃社ノ體制ヲ察スルニ、モト「社」トハ支那政府ガ蕃人ノ部落ヲ指稱シタル語ニシテ、蕃語ノカーらん之レニ相當スル。シカモ其ノカーラント呼バル、部落ハ數十戸密集セルトキハ勿論僅ニ數戸ト雖モ一ヶ所ニ聚ルトキ斯ク稱セラル、モノニシテ、從ツテ蕃社ト謂ハルルモノモ支那政府ガ理蕃ノ必要上適宜ニ按配シテ、或ハ一部落ヲ以テ或ハ數多ノ部落ヲ合セテ其處ニ一人ノ頭目ヲ置キテ以テ統轄セル、皮想的ナル結社ニ過ギナイト謂ハルル(報告書三 一四五頁)故ヲ以テ蕃社又部落ヲ目シテ一單位ト做スハ當ラズ、其ハ寧ろ單ニ人家ノ集合シタル狀態ヲ指ス名稱タルニ過ギズ、實際ニアリテ完全ニ一社會ヲ成スモノモアレド、他ニ不完全ナル體制ノモノ即チ數社ヲ以テ一體ヲ成スアリ、又一社ノ内ニ數箇ノ團體分立シテ社會ヲ成スモノモアルトイフ(報告書三 三六頁)畢竟スルニ單ナル地域團體トシテ「社」ノ確立サレタルモノヲ見ルコト難イノデアル。

然レバ蕃族ノ社會體制ヲ統一スルモノヲ、當ニ地的要素——一定ノ地域ヲ占有スル事情ニノミ求ムベキニ非ザルコト言フ迄モナク、重要ナル人的要素ヲ考ヘネバナラス。茲ニ人的ト指示スルハ、祭祀・狩獵・犠牲ノ共同ノ謂ニシテ、ソノ各々ハ夫レ夫レ一團體ヲ構成スルニ足ル拘束力ヲ有セルモノデアル。實情トシテハ一ノ祭團ガ同時ニ獵團又牲團ヲ兼スルアルニモセヨ。蓋シたいやる族ハ概シテ祖先崇拜ノ念強ク、毎年穀物ノ播種又ハ收穫ニ際シテ一衆共同シテ祖先ノ祭祀ヲ行フ習俗ガアルノデアル(報告書三 一二頁)而シテ祭祀ノ爲ノ團體ハ、兼ネテ狩獵ニ當ツテ共働スルモノガ多イトイフ(報告書三 一三頁)殊ニ興味アルハ犠牲ニ關スル團體デアツテ、其ハ婚姻・離婚・私通・殺害其他慣例ニ違反シタル場合ニ於テ、其不淨ヲ禳フガ爲ニ、珠裙珠衣(其ニ蕃人間ノ貨幣)又ハ銃砲ヲ以テ族衆ニ提供

シ、族衆ハ之ヲ以テ家猪ニ代ヘ屠リテ一衆ニ分配スルノ習俗ニ本ヅキ(報告書三、一三頁)、其ノ犠牲分配ニ干與スル者共ハ臆テ一團ト成ツテ集マル。且ツ多クハ一個又數個ノ祭團ニ由リ組織セラル、トイフ。此ノ習俗ガ不淨ヲ禳ヒ禁忌ヲ解カムトスルノ信心ニ由來スル事、又此ノ際犠牲ニ代ヘム料トシテ財物(即チ贖財)ヲ提供スルヲ制規トスル事情ハ、思フニ我ガ祓除ノ習俗ト彼ノぐえあ・ぎるどノ制度トヲ結ブベキ、觀念上ノ連鎖ヲ爲ストモ觀ジ得ルデアラウ。

而シテ右ノ如キ人的要素ガ加ハリテ「社」ノ團結ハ統轄サレユク。ソノ結社狀態ヲ觀ルニ、前記作業ノ共同ニ際シテハ固ヨリ一人ノ首領ヲ戴キテ行動スルト雖モ、其ノ首領ノ指揮ハ祭祀狩獵ソノ事ニノミ關スベク、他ノ凡ヲノ事件ニマデ一人ガ專斷ノ權限ヲ有スルコト無シト謂ハル。試ミニたいやる族ニ屬スル大嶺埃蕃ノ蕃社ヲ察スルニ、「社民ノ間ニハ男女老幼ノ如キ自然的階級アルノミニシテ、貴賤貧富、門閥又ハ職業ニ因ル人爲的階級ナシ。從テ社民ハ其社ニ於テ同等ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ」狀態デアル(報告書三、二八頁)。更ニ社民ノ權利義務ノ一端ヲ例示セムニ、「一社共同ノ利害ニ關スル事件ニ付テハ、之ニ參加スルノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ」ト做シ、「其社ガ他社ニ對シテ戰闘ヲ開始シ、或ハ他社ト他社トノ戰闘ニ際シ、其一方ニ應援ヲ約シ又ハ局外中立ヲ決定シタル場合ニハ、社民ハ社ノ協議シタル所ニ從ハザルベカラズ」ト言ヒ、「又社民ハ一社ノ秘密ヲ守ル義務ヲ有ス。…又他社ト戰闘中ハ他社ノ内ニ自己ノ父母兄弟アル場合ト雖モ、社ノ許可ヲ得ザレバ通行スルコトヲ得ズ」ト定メラル(報告書三、二八頁)。即チたいやる族ノ社會體制ハ其ノ通有ノ性質トシテ、平等的・自主的の且ツ共和的ナル事ヲ、右抄出ノ三條項ニヨリテモ推知シエラル。其ノ團結ハ要スルニ共同ノ利害關係ニ

歸因スベク、偶々地縁ニ繋ガル者ニ對ヒテ、誰人モ拒ミ難キ人爲の共同ノ要求ガ加味セラル、ニヨリ、始メテ社ノ體制ハ統一實現セラルベシ。且ツ之レ等ノ事情ヲ通シテ看取セラル、點アリ、争鬭ノ爲ノ團體ガ殊更、サレド強固ニ存立サル、事、シカモ其ノ爲ノ團結ハ恰カモ單位トシテノ血縁ヲ全クニ默殺スル如キ情態ヲ(一見シタ所)呈示スル事之レデアル。甚シキハ近隣ナル數多ノ社ガ共同ノ利害關係ヨリ相聯合シ、一個ノ攻守同盟ヲ組織スルヲ見ル(報告書三、一七頁)。斯クノ如キ地縁ノ現レヲ看テ以テ、別箇ニ存スル血縁ノ繋リヲ忘レタクナイ(本稿前段及ビ後段參照)。

爰ニ再ビ思フ戻シテ贖財並ビニ出草ノ慣例ニ立チ入ツテミヨウ(報告書「不法行爲及ビ其制裁」ノ條並ビニ裁判ノ條引照)。

元來古代人ガ理想シタル手段ハ、血ヲ以テ血ニ報イ骨ヲ以テ骨ニ報イルノ主義デアツテ、例之家ヲ燒カレタル者ハ對手ノ家ヲ燒クベシ、父ヲ殺サレタル者ハ對手ノ父ヲ殺スベシ、ト做スノデアツタガ、斯クテハ争鬭ノ終極スルナク、又同族相屠ルニ至ルヲ見知ツタ時、既ニ財物ヲ以テ罪ヲ贖フ法ガ案出セラレタノデアツタ。

本來ナレバ不法行爲ノ責任者ハ犯罪者本人ニ限ルベシ、因リテ其ニ對スル私刑ハ他ノ人々即チ父母兄弟等ニ及ブコトナキヲ常トスル。然レドモ此ノ本則ハ爰ニ論考シツ、アル贖財ノ場合ニハ適セズ、蓋シ贖財ヲ支辨スベキ者ハ當人ニ限局サレズシテ、其ノ家産ヨリシテ充當スルノデアアル(報告書三、四八頁)。

贖財ヲ受領スル者ハ特定ノ人又家カ或ハ族衆一般ト定メアリ。左ニ抄録スル。
贖財ノ處分 贖財ノ中ニハ侵害ヲ受ケタル特定ノ人ニ歸スベキモノト、一般族衆ニ歸スベキモノトアリ。

一、特定ノ人ニ歸スベキ贖財 此種ノ贖財ハ被害者本人又ハ其遺族ニ歸スト雖モ、(一)被害者ハ此内ヨリ其一部ヲ割キ、談判ニ當リタル頭目又ハ有力者ニ與ヘ、又其不祥ヲ禳フノ要アルトキハ一部ヲ族衆ニ提供セザルベカラズ。族衆ハ之ヲ以テ豚ニ代ヘ肉ヲ屠リテ各戸ニ頒ツ。……(二)然レドモ侵害ノ性質ニ因リ之ヲ家ニ收ムルヲ欲セザルトキハ、其ノ全部ヲ族衆ニ提供ス。大嶺塚がおかぬ兩蕃ニ於テハ殺人・有夫姦・有妻姦ヨリ生ズル贖財ヲ不祥トシテ家ニ入レズ。……

二、族衆全體ニ歸スベキ贖財 之ニ一ノ祭祀團體ニ歸スベキモノト、一社衆ニ歸スベキモノト一獵團……ニ歸スベキモノトアリ。例ヘバ祭祀ノ禁忌ヲ犯シタルニ因リテ得タル贖財ハ該祭祀團體ニ歸スベク、他社ノ民ガ本社ノ獵場ニ密獵シタルニ因リ、其者ヨリ取リタル贖財ハ本社ノ族衆ニ歸スベク、……其贖財ノ大ナルモノハ豚ヲ屠リテ肉ヲ各戸ニ分チ、小ナルモノハ頭目又ハ有力ナル蕃丁ノミニ分チ或ハ酒ニ代ヘテ飲盡スヲ法トス(報告書三五・四・五頁)。

贖財ヲ授受スル團體ハ其ノ範圍隨時的ニ定マル事ヲ、右ノ制規ヨリ察知シ得ル

贖財ノ額從ヒテ其ノ品目ヲ決定スル標準ハ、不法行爲ノ性質及ビ損害ノ大小ニ依ルベキハ容易ニ考ヘ得ルガ、同ジキ行爲又同様ノ損害ニ就キテモ、兩當事者(部落造)ノ強弱及ビ談判ノ巧拙ニ依リテ多寡ノ差ヲ見ルトイフ(報告書三二・五一頁)。試ミニ其ノ一二ノ例ヲ引用スレバ――

(一)生命ノ侵害 故殺・誤殺ヲ論ゼズ、被害者ノ遺族ハ加害者ヨリ贖財ヲ取ルニ非レバ、之ト相和スルコトヲ得ズ。其額大嶺塚・がおかぬ兩蕃ニ於テハ珠裙三十枚 屈尺蕃ハ珠裙二十枚乃至三十枚、溪頭蕃ハ珠裙十枚、南瀾蕃ハ珠衫一枚又ハ銃一挺トス。但シ誤殺ノトキハ其額ヲ減ジ、或ハ全ク之

ヲ免ジ、唯加害者ノ意思ニ依リ若干ノ財物ヲ與ヘテ遺族ヲ慰スルニ過ギザルモノアリ……(報告書三五)

(二)身體ノ侵害 毆打ハ血ヲ見ルト否トニ依リ罪ニ輕重アリ、各部族ニ依リ贖額ヲ異ニス。大崙崙屈尺兩蕃ニ於テ其重キハ珠裙四五枚、輕キハ酒一瓢又ハ蕃布二枚ナリトス(同書三五)

(五二頁)

右ノ記載中特ニ注目スベキハ、贖財トシテ擧ゲラレタル品目之レデアル。或ハ珠衫トイヒ珠裙トイヒ、又蕃布トイヒ或ハ又酒トイヒ銃トイヒ、何レモ皆彼等蕃民ニトリテ最モ必要ナル品種デアルコトヲ思ハネバナラス。茲ニ最モ必要ト云フハ——此ノ條下左右田博士ノ言句ヲ借ル——必ズシモ生理的必要ト云フニ非ズ、裝飾用ノモノ却ツテ生理的必要品ニ勝リテ必要トセラルルコトアリ、必要トハ畢竟人類感情ノ成果ニシテ、人類ガ認メテ以テ其ノ目的トスルモノニ對スル關係ノ上ニ就テ云フモノノミ、物其レ自ラニ固着スル性質ニハ非ズ(左右田博士「信用券貨幣」論二五頁ヨリ引用ス)。前記例示ニ於テ最モ重キ制裁ニ充テラレタルモノハ珠衫ナルガ、此ノ品ハ(恰モ其ノ形狀南京玉ニ似タル螺製ノ白キ小粒ニテ、中央ニ穴ヲ穿チタルモノヲ麻糸ニテ連繫シ、約三寸乃至五寸ノ長サトシ、蕃人自製ノ麻糸ノミヲ用ヒタル蕃布製ノ被服ノ前後兩面ニ數十條縫ヒ着ケタル衣裳ナレバ)、彼等ニトリ裝飾用貴重品ノ尤ナルモノニシテ、寔ニたいやる族ニ於ケル最上ノ盛服ト看做サレラルモノデアル(報告書二)(註八)

(註八) 上述ノ如キ蕃族ノ習俗ヲ橋南谿著ノ「東遊記」ニ誌サレタル謂ハユル蝦夷人ノ風俗ト照合スレバ、興趣湧クヲ覺ユル。因リテ左ニ錄ス。

儲蝦夷人は如何なる故にさほど寶物をもてはやすといふに、或は人と爭論し又は罪を犯し過をなしたる時、寶物一品二品三品四品、其罪の輕重によりて品を出し與へて詫る事なり。いかやうなる罪にても寶物さへ出せば、一命を助かりて身を保つ事なり。其故に別して寶物を愛するなり。(以上ハ福田博士舊版「經濟學研究」三六三頁ヨリ援用シタ。)

續イテ興味アル事ハ、斯ク贖財ノ用ニ充テラルル品ガ、兼ネテ貨幣トレテ彼等ノ間ニ通用セルヲ見ルノデアアル。稱シテ珠貨(又ハ蕃貨)トイフモノアリ、更ニ其ノ珠貨ヲ環狀ニ繋ギ合セタルモノ(珠條)、其ヲ十條宛束ネタルモノ(珠條束)、又其ノ珠條ヲ麻布ニ綴著シタルモノ(珠裙)、蕃衣ニ附著シタルモノ(珠衫又ハ珠衣)ナド、何レモ皆單ニ贖罪ノ如キ一方の支拂ノミニアラズ、賣買取引ニモ使用サレテキル。思フニ漢人が蕃產物交換ニ珠貨ヲ用ヒタルハ、畢竟蕃人間ニ於テ既ニ裝飾品トシテ之ヲ貴重シタルニ因リ、其嗜好ニ投ジタルニ過ギザルベシ、暫ク疑ヲ存ス)ト、調査報告書ニハ附註サレテキルガ(該書七七頁)、私カニ疑フマデモナク、珠條珠裙殊ニ珠衫(彼等ガ無上ノ美服ナルコト既ニ言及シタルガ如キ)ハ明カニ珍重サレシ品ニシテ、又其ノ故ニ彼等ノ欲求トリソケ一方の支拂ニ際シテノ對手ノ慾心ガ、其レ等ノ貴重品ニ向ヒ昂進シタルハ密ムニ足ラズ。且ツ未開人ノ心理現象トシテ手段ヲ單ニ手段トシテ見ルコト難キ(左右田博士、信用券貨幣論中ノ該書一四頁)彼等ノ間ニハ、雙方的取引行爲ニ就キテモ猶彼等ノ看テ以テ必要ト做ス貴重品ニ、第一ノ欲求ガ向ヒシ事亦推察スルニ難カラズ。而シテ其ノ由來スル所ハ蕃民ガ(支拂・交換)用具ツレ自ラニ價值ヲ認ムルニアリ、隨ウテ又其ノ用途ノ輕重ニヨリ用具ヲ斟酌スル、例之蕃民ハ珠衫一枚ハ珠裙二枚ニ算シ、珠裙一枚ハ珠條五十連ニ算ヘルトイフ、シカモ尙其ノ大小長短ノ異ナルニ依リ、實際ニ於テハ交換ノ都度其ノ價格ヲ評定スルコトガ多イトイフ(報告書二七七頁)。

此ノ慣習ヲ吟味スレバ、支拂又交換用具ノ存在ハ用具ソレ自身ガ價值ヲ保藏スルノ一點ニ集中サセテ考ヘ得ル。爰ニハ一方の支拂・相互の取引ニ共通ナル現象ヲ認メタ、本來ハ人ヨリ抽象サレタ

ル行爲(罪惡非行)ヲ秤量スベク、又兼ネテ或ハ更ニ分化シテ、行爲(賣買取引)ヲ具體シタル財物ヲ評價スベク、價值保藏具自體ガ役立ツタト謂フノデアル(註九)。

(註九) 左右田博士ノ「信用券貨幣論」ヲ披クニ、ソノ原始時代ノ社會狀態ト貨幣ノ實質ノ說明中、未開時代ニ特有ナル均齊的傾向ノ一例トシテ、未開時代に於テ醫師の報酬として支拂ふ家畜の品質と體性とが、患者の社會的地位と體性の異なるに應じて又差等ありしが如きヲ示シテアル(前掲書一四頁)。

之ト恰好ニ對比スベキ例ガ蕃族ノ慣習ニ求メラル、即チ珠寶ノ說明中「祈禱ノ爲メニ巫醫ニ與フル報酬ハ其品質大小ナ問ハザルガ故ニ、多クハ劣質ニシテ且ツ小ナル品ヲ以テスト云フ」ノデアル(報告書二七六頁)。

右ノ二ツノ例ハ共ニ醫師ニ對スル報酬ノ場合ナルガ、一ハ其レニ生活必需品タル家畜ヲ以テシ且ツ其ノ實質ヲ評價スルニ、他ニアツテハ所謂裝飾用品ヲ採リ而カモ其レニハ價值判斷ヲ加フルコトガナイ。察スルニ、一方的支拂用具ニ對ツテモ猶ソノ實質ノ價值判斷ヲ忘レザル(即チ手段ヲ手段トシテ見ヨウトハセヌ)事ガ、恐クハヨリ開化セザル人ノ心理現象ナルベク(前掲第一例)次イテ賣買取引ノ現ル、時勢トナレバ、一方的支拂用具ノ實質評價ハ之ヲ見ズトシテモ、猶交換要具ソレ自體ノ鑑別ヲ忘レザル如クナル(前掲蕃族ニ於ケル第二例)、而シテ貨幣就中信用券ノ流通現象ハ、(支拂又交換)用具ノ實質價值判斷ヲ全クニ忘却スル(即チ單ナル手段ヲ是認スル)心理ヨリ惹起サレタ、最後ノ段階トモ觀ルヲ得ルデアラウ。

尙觀方チ變ヘテ用具ノ品種ヨリ按ズルモ、カノぐえあ・ぎとどガ家畜ヲ以テシタルチ最古トスル事情(次項參照)ヨリ類推シテ、前掲臺灣蕃族ノ珠彩ヲ採用スル習俗ハ、ヨリ開化セルモノニ屬スルト察シ得ルデアラウ(本篇次項參照)。

以上縷説シタル贖財ノ制度ハ、種々ノ點ニ於テ彼ノぐえあ・ぎとどニ類似セルコトヲ認メ得ル。從ヒテぐえあ・ぎとどヲ以テ締結スルニ至ラザリシ場合ノぶらつど・ふゆうどハ次ニ述ベムトスル出草ノ慣習ニ相當セルコトヲ想ヒ得ル、モトヨリ瑣細ナル點デハ異ルアルニセヨ。

出草ハ單ナル戰鬪ト異ル。即チ其ノ目的ハ敵ノ首級ヲ誦取スルニアツテ、他ニ無シ。敵ノ勢力ヲ弱ムルガ爲ニ非ズ、又敵ノ財物ヲ奪フヲ旨トセズ。蓋シ出草ヲ行フハ神靈(彼等ノ謂フうつとふ)ノ審判ヲ仰グノ心ニ基ヅクノデアツテ、神ハ必ズ正シキ者ヲ助クベキ故ニ、出草ニ際シデモ正シキ者

ニ首級ヲ與ヘ給フ、因リテ出草シテ首級ヲ得タル者ハ直ナリ、之ヲ得ザル者ハ曲タルナリ、ト信ジテキルノデアル。而シテ斯クノ如キ信念ヨリ執リ行フ裁判ノ機關タルト共ニ、出草ハ又復讐ノ手段トモ成ル。既ニ言及シタル如クニ、血族ハ其近親ノ殺害セラレタル場合ニ報復スベキ義務ヲ負フ、但ダ加害者ガ同族ナルトキハ贖財ヲ以テ局ヲ結ブモ、異種族ナルトキ又ハ同種族ナガラ仇敵關係ニ立ツ部族ナルトキ、此ニイフ出草ノ手段ニ訴ヘルコトニナル。唯注目スベキハ、必ズシモ加害者其者ヲ倒スヲ要セズ、加害者ノ種族又ハ部族ニ屬スル者ナラバ、何人ヲ倒スモ妨ナシト謂ヘル事之レデアル（報告書三、六一頁）。之ニ因リテ觀ムニ、彼等ノ間ニアル對敵關係ハ、加害者ソノ人ト被害者當人トガ對立スルノデナク、實ハ加害者ノ一族ト被害者ノ所屬セル一族トガ相對抗スルコトニナル。且ツ係爭中ハ、「相手方ノ團體ニ屬スル者ニハ勿論、其他ノ人ニ對シテモ、一介ノ物ナリトモ之ヲ與ヘ又ハ貸渡スコトラ得ズ」「自己ノ團體ニ屬セザル者ハ、一切之ヲ家ニ入ルベカラズ」「相手ノ團體ニ屬スル者トハ、相往來スベカラザルハ勿論、途ニ相逢フモ言語ヲ交フベカラズ」（報告書三、六三頁）等イフ極端ナル排他的團體ガ存立スル、シカモ其ノ關係ハ、相手方ヨリ唯一個ノ首級ヲ鹹取シテ以テ結末トナルノデアル（此等ノ事情ハぶらつど・ふゆうどノ集團現象ヲ想到セシメル）。

贖財並ビニ出草ノ制度ヲ對内關係トシテ、即チ不法行爲及ビ裁判ニ關シテ考察スレバ大略上述ノ如キヲ知ルガ、次手ニ其ノ對外關係ヲ觀察シヨウト思フ。

之ヲ例スルニ、一ノ部族ニ屬スル個人ガ、他ノ部族ヨリ殺害セラレ略奪セラレ、其他忍ブベカラザル侮蔑ヲ加ヘラレタル場合ニ、加害者ガ被害者及ビ其ノ遺族ニ對シ其罪ヲ謝シ、且ツ一定ノ贖

財ヲ提供スルトキハ、事戰鬪ニ至ラズシテ結局スト雖モ、加害者ガ頑然屈セズ贖財ノ提供ヲ肯ゼザルトキハ、被害者ノ遺族ハ武力ヲ以テ之ヲ攻撃シ兩者ノ間ニ爭鬪ヲ生ズ(報告書三七二・三頁)。而シテ其ノ爭鬪ノ狀態ハ有力者ノ仲裁ヲ得ルマデ存續スベク、謂ハユル仇敵關係ガ成リ立ツワケデアル。其ノ關係ノ如何ナル性質ナルカ、報告書ノ記事ニ從ヘバー一ノ部族ガ他ノ部族又ハ異種族ニ對スル仇敵關係ハ、一ノ部族ニ屬スル總テノ個人ト、他ノ部族又ハ異種族ニ屬スル總テノ個人トノ關係ナルガ故ニ、殺傷又ハ略奪等ノ攻敵行爲ハ、相手方ニ屬スル總テノ人・土地其他ノ財産ニ對シテ活動シ、婦女老幼ト雖モ其目的物タルコトヲ免ルルヲ得ザルナリ(報告書三七二頁)。

サレバ前ニ社ト社ト對立關係ニ於テ察知シタル所ナルガ、今仇敵關係ニ就キ更メテ考フルニ、彼等ガ一ノ部族又一ノ種族ヲ敵對視スル場合ハ、モトヨリ敵對ノ一人ヲ目指スニ非ルモ、其ノ謂ハ相手ナル部族又種族ニ所屬スル總テノ個人ヲ眼中ニ置クト思フベク、且ツ斯ク同一範圍内ニ在ル一切ノ人ヲバ一括シテ、一個ノ團體ト認識スルホドニ進化シタル觀念ヲ有タナカツタノデアル。カク思フ所以ハ、たいやる族ノ用語ぱりしが雷ニ部族對部族又部族對種族ノ關係ニ充當サル、ニ止ラズ、單ナル個人ト個人トノ間ノ敵對關係ヲモ猶ぱりし、ト呼バルル事ニ依リテ裏書セラルルデアラウ、(報告書三七二頁)。(尙ぶらつど・ふゆうどノ集團ヲ考ヘ合シタイ)

元來仇敵ノ關係ハ、兄弟鬩牆ノ現象トナル。蓋シ部族ト部族トノ間ハ假令團體形成サレズトスルモ、血屬的干繫(祖先・言語・慣習ノ共通)ガ一條ノ紐帶トナリテ、相親近スベキデアル。故ヲ以テ異種族ニ對シテ常ニ共同一致ノ行動ヲ執ツテ、部族相互相應援シテ以テ當ルトイフ(報告書三七二・三頁)、共同

體ノ意義ガ此ニ見出サレル。

茲ニ蕃族ノ集團現象ヲ通觀スレバ、鬭爭ト惡行トノ頻發スル環境ニ在ツテ、血族相頼ミツ、又神靈ヲ信仰シツ、且ツ贖財並ビニ出草ヲ以テ紐帶ト成シテ、隨處ニ平和團體ガ實現セラル、ヲ知ル。シカモ畢竟スル所ハ、血縁ノ固キ、而シテ他ノ因縁ノ *ad hoc* ナリシ原始人ノ生活態ヲ想フノデアル。

五

獨逸法制史ノ權威ぶるな一ハ、原始經濟生活ヲ考察スルニ當ツテ、劈頭ニ次ノ如ク言ツテキル

“In viehäuptern zählte man die Busse. Das Rind diente als Geld.” Brunner: Deutsche Rechtsgeschichte, Band I. S. 82.

右ノ數言ノ中ニ現レタル如キ *geld* ヲ捉ヘテ、[貨幣]ノ淵源ヲ贖罪料トシテノ「支拂要具」ニ求ムルコトハ、爰ニ論考シツ、アルグエゐ・ぎるとト貨幣ノ聯想ノ第一ニシテ(註一〇)。此事ハ既ニ福田博士ノ指摘セラレタル所デアル(續經濟學研究、經濟史雜考、祓除ト貨幣ノ關係參看、尙本項附註二參照)

(註一〇) 前掲文ニ於テ Busse ナル語ニハ *Wergild* チモ包含スル。蓋シぶつせハ元ト廣義ニ用井ラレシモノニシテ、兩者ガ觀念上區別セラル、ニ至ツタノハ、中世以降ノ事デアル、トぶるな一ハ見解シテ井ル(Brunner, op. cit. S. 230.)。

而シテ又右ノ數言ガ説明スル如クニ(且ツ本稿既述ノ如クニ)「グエゐ・ぎると」ハ當初「家畜」ヲ以テ之ニ宛テラレタト考ヘルベキデアツテ、因リテ又たしたすニ倣ツテ、馬ヲハ先ヅ計算單位ト倣ス、ト觀察シ得ルノデアル(Brunner, op. cit. S. 230.)。カノシート「ぼーむ」ハあんどろさくそん族ニ於ケルとらいはる。

かすたむヲ説示スルニ際シテ、餘リニ過度ニ夫ノぐえあ・ぎるとヲ強調セムトシタ者デアルガ、シカモ其ノ提言ノ趣旨ハ、「當初ぐえあ・ぎるとハ家畜ノ round number 殊ニ百頭ヲ以テ正規トシタルモノニシテ、又ソノ故ニ早クヨリ百單位ノ金量ヲ採用スルニ至リシ」、ト言ハウトスルノデアッタ (Seebohm: Tribal Custom in Anglo-Saxon Laws, pp. 3-4)。かんにんがむガ右ノ意ヲ酌ミツツ、「ぐえあ・ぎるとノ如キ古キ代價ノ制度ニ、既ニ money ガ使用サレキタリトスレバ、取引ニモ亦夙ニ money ガ流通サレキタルナラム」ト推究スルノハ稍過ギタル憶測ナリト思ハレル (Cunningham: Growth of English India, Vol. I, pp. 48-49)。ソノ故奈何トナレバ、吾々ハあしわれニ隨ヒテ、「The earliest function of currency in early societies was not so much that of a medium of exchange as of a store of value.」(Ashley: Economic History and Theory, Vol. I, Part I, pp. 163-164)ト信ゼムト欲スル者デアリ、故ニ原始ニ交換ノ尺、度トシテ職能ヲ見出シ難シトスルモ、猶價値保藏ナル事實ヲ目シテぐえあ・ぎるとト貨幣ノ連結ヲ試ミムトスルノデアル (前項蕃族ノ習俗參照)言ヒ換フレバ、家産評價ノ尺度タル職能ヲぐえあ・ぎるとニ就キテ認メ得ル。蓋シ家畜ノ頭顧數ガ財産ヲ決定スルトイフ考ハ、稍長クマデ傳承サレテ、ぐえあ・ぎるとノ同一ナルコト即チ財産關係ノ同等ヲ意味スル事ト成ツテキタ (Brunner, op. cit. S. 286)。而シテ例セバ寺院ニ寄進サレタル土地ノ買戻アル場合ノ如キ、其ノ買戻價格ハぐえあ・ぎるとニ據リテ評定スルノ風ガ遺シ傳ヘラレテキタノデアル (Brunner, op. cit. S. 287)。之レ等ハ money ノ實質ヲバぐえあ・ぎるとガ夙ニ表現シテキタ事ト觀ジラレルデアラウ。附ケテ言ヘバ、ぐえあ・ぎると支拂ノ鈔カラザル苦痛ハ、恰モ money ニ於ケル崩シノ支辨ノ如キ便宜ノ方法即チ謂フ所ノ「信用附與」ヲ引導スル端緒トナツタ、ト觀察スル論者モアル (Pollock

Maitland: History of English Law, Vol. II, p. 187.)

抑々うゑあ・ぎるとナル代償觀念ノ發生ハ、「人間」ヲ價值ツケル事ニ由來シテキル。元來人間ハ自體殊ニ身體各部ヲ夫々ニ評價スルンデアツタ。爰ニ注意ヲ惹クノハ其ノ身體各部ノ中「髭」ガ「股」ヨリモ「前齒」ガ「肋骨」ヨリモ高ク評價サレタト謂フ一事デアツテ、事ハ社會學的考察ニ委スベキデハアルガ、古代人猶容貌ヲ尊重シテ、人間ノ値打ヲ評判スルノ心理ヲ具ヘテキタト謂ヒ得ル(註一一)。

(註一一) Lubbock: Origin of Civilization and Primitive Condition of men(1874). p. 321.—

“Among the Anglo-Saxons the ‘werild,’ or fine fore injuries, was evidently a substitute for personal vengeance. Every part of the body has a recognized value, even the teeth, nails, and hairs. Nay, the value assigned to the latter was proprietary very high; the loss of the beard being estimated at 20s., while the breaking of a thigh was only fixed at 12. In other cases also the effect on personal appearance seems to have carried great weight, for the loss of a front tooth was estimated at 6s., while the fracture of a rib was only fixed at 3s.”

髪ノ毛一本指ノ爪一個が夫々價值ツケラレ井シ事ヲ右ノ説明ニヨリ窺ヒ得ル。此ニハ我神代ノ傳説ニ見ユル、人身又人體ノ一部之ヲ例スルニ手ノ爪足ノ爪ヲ被具トシテ供シタ事ヲ考ヘ合シタイ(前掲福田博士論考參看、尙本項附註二參照)。

傳説ノ時代ヲ過ギテ既ニ法規ノ時勢ニ至ルトキニ、右ノ如キ人體ノ評價ハ化シテ「生具權」Geburtsrecht; birth-right トナツテ、うゑあ・ぎるとヲ決定スル標準トシテ現レタト思ヒ得ル(ぶるなノ言ヲ引用スレバ——“Das Vergeld wird durch das Geburtsrecht des Verletzten bestimmt.”——

(Brunner, op. cit. S. 385.) 之ヲ反面ヨリ見レバ、階級ノ分岐ト共ニ身分ノ上下ニ應ジテ、うゑあ・ぎるとニ多寡ヲ現スニ至ツタノデアル(註一二)。ぶるなノ觀察ニ從ヘバ、獨逸ニ於テハげるまん時代ニ進ミテ漸クニ、うゑあ・ぎるとノヨリ大ナル者ヲ以テ貴族ト見做スノ風習トナリ、同時ニ一方ニハうゑあ・

ぎるとノ値打ノ全ク「零」ナル奴隷ノ存在ヲ見ルニ至ツタノデアル。即チ「奴隷ハ牛馬同様ニ主人ノ手ヨリ掠メ去ラレルコトガアル。而シテ又假令第三者ニヨリテ殺サルコトガアルニシテモ、アエあ・ぎるとノ支拂トハ無ク、唯其ノ實價^{ワッハウエルト}ノ賠償ヲ以テ返報スルイデアツタ」ト謂フ(Brunner, op. cit. S. 190.)。要スルニ奴隷ハ人ニ非ズシテ、物(主人ノ所有物)ナリトノ觀念ガ、人ノ値打タルアエあ・ぎるとノ評定ヲ受領シ得ナカツタ所以デアルト思ハレル(本項附註(一)參照)

(註二) The main clue to an understanding of the division of classes has been the amount of the wergilds (Seebohm: Tribal Customs etc. p. 498.).....The thegn had a definite legal rank. His wergild, for example, the fixed sum with which his death must be atoned for to his kindred, or which he might in some cases have to pay for his own misdoing, was six times as great as a common man's, (Pollock and Maitland: History of English Law. Vol I. p. 33.)
.....There was a special scale of wergild for the clergy (Pollock and Maitland, op. cit. p. 34.)

尙ぶるなノ言フ所ヲ聽タニ、「ふらんく時代ニハ、アエあ・ぎるとノ額ガ社會上識別ノ標準ト成リ (als Masstab der Sozialen Unterschiede) 法律上保護セラルベキ人格ノ價值ヲバグアエあ・ぎるとガ數字デ以テ表示スルニ至ル」即チ「ヨリ高キ地位ニハヨリ高キアエあ・ぎるとガ相應ズル」(Dem höheren stande entspricht ein höheres Wergeld.) 時勢ニ成ツタノデアル (Brunner, op. cit.).

是ニ於テカ、アエあ・ぎるとハ世間ノ人ガ目安トシテ注目スベキ、『人間ノ價格』トシテ表ハレタ事ヲ知ル(註三)。此レガ爰ニ論考ヲ志シタルアエあ・ぎるとト貨幣トノ聯想ノ第二點デアル。

(註三) Pollock and Maitland, op. cit. p. 47.:—A man's life has its price, but otherwise there is not even any recognized scale of compositions.....A freeman's life has a regular value set upon it, called 'wergild,' literally 'man's price' or 'man-payment,'.....

附註一 蕃族ノ身價及ビ奴婢ノ事。臺灣ノたいやス族ニ於テハ、人ハ財産權ノ主體タルト同時ニ亦ソノ客體ト看做サル。即チ不動產又動產同様ニ人間モ價格付ケラル、モノニシテ、從ツテ婚姻又ハ取養等ニ因リ人ヲ手離シスルトキハ、其ノ人間ノ價格——謂ハユル「身價」ヲバ生家ガ取得スル。且ツ其ノ身價ハ頗ル高クシテ、一家全財産ガ一家族身價總額ニ達スルモノ尠シトイフ（前項所掲蕃族調査報告書二五七・八頁）故ニ家族ハ重要ナル財産ナ成シテ非ル。但シ他家ニ賣渡シタル後モ猶之ヲ保護スル權利ヲ留保スル（前項參看）故ニ、所有權ノ内容ニ至リテハ他ノ財産ト異ル。全クニ其ノ内容ガ財産ト同一視サレ、自由ニ賣斷セラルルモノトシテ奴婢ヲ擧ゲ得ル、強制的ニ一家ノ勞働ニ使役セラル、モノニシテ、其ノ身分ノ發生ハ悉ク賣買及ビ典ニ依リテ生ツ掠奪ニ依ルモノ無シトイフ（報告書二〇二頁）。今奴婢ノ地位ヲ察スルニ「奴婢ハ主家ノ家産ノ一部ヲ爲ス」即チ「之ヲ他ニ轉賣シ或ハ贖身セシメタルトキハ、其身價ハ主家ニ歸ス」又「奴婢ガ取得シタル財産ハ主家ノ家産ニ歸ス」（報告書二〇四頁）。故ニ結局奴婢ハ全クニ財産權ノ客體ニシテ其ノ主體タルコトナク、其ノ身價ハ「零」ナリト看做サル。念フニ「ア・ギ」等ハ其ノ語ノ直譯的意義ニ於テ、又其ノ制度ガ奴隸ニ對スル意義ニ於テ、茲ニ示シタル蕃族ノ謂フ「身價」ニ相似スルト思ハル。

附註二

「贖ふ」購ふノ事。あがふトイフ語ハ萬葉集ノ詞ニ次ノ如ク見ユ。

トキカゼ フケヒノハヤニ イデ井ツツ アガフイノチ ハモガタモコ
I 時 風。吹飯乃濱爾。出居乍。 贖命者。妹之爲社。——萬葉卷十二
ナカトミノ フトノリトゴト イヒハラヘ アガフイノチ モ。タガタムニナレ
2 奈加等美乃。敷刀能里等其等。伊比波良倍。 安賀布伊能知毛。多賀多米爾奈禮。——萬葉卷十七

清めて罪を逃れむがために身のかばりに物を出すを贖ふといふ。さてその出す物を贖物といへり。……さてその贖物を出してその命全く長からむことを贖ふと贖命といへり（國書刊行會本第五册四三五・六頁）。又萬葉集辭典（折日信夫氏著）、あがふノ項ニ見ルニ、——罪を神に對して謝すれば免されるものとして、其程度に準じて、その財産ヲ提供して神慮を休めるのである、財産ばかりで足らぬ時は肉體にも及ぶのである……（大正七年本二・三頁）。上ノ如キ説明ヲ爲シ得ルナレバ、我國ノ「贖ふ」ノ習俗ガ彼ノ「ア・ギ」等とノ制度ト相通ズルコトナ、類推スルモ不當デハアルマイ。更ニ言語ニツキテ吟味スルニ、倭訓栞、あがふノ條下ニ神代紀に贖をよみ新撰字鏡に贖をよめり、……今あがなふといふなり、相稱の義にや。ト解イテアル。之ニ由リテあがふノ語ハ今ノあがなふノ古キ形ナルチ知ルベク（あがなふチ解イテ相ヒ稱フノ謂ト做スハ好マシカラズ）、「贖ふ」「購ふ」ハ共ニ同一語根あがチ具ヘル（前掲萬葉集辭典參看）。ノミナラズ共通語源ヨリシテ漸次的ニ派生シタル二語ト思考デキル（あがなふニ於ケル

なふ・はあきなふ(商)・つぐなふ(償ふ)・まかなふ(賄)ナドニ見ルモノト同シク、其ノ意ヲ(爲)ノ變化形ナルベシ。之ヲ要スルニ、贖ふ・購ふノ兩語ハ二ツノ異リタル觀念ヲ示スニモセヨ、恰モカノ獨逸語ニアリテ Geld ガ Weid ニ對スルガ如ク同一語源ニ由來スル事チ、語形ヨリシテモ類推スルヲ許サル、デアラウ(此ノ愚考ハ福田博士ノ論考ニ才蔭ヲ蒙ツテ、唯少シク其ヲ引キ伸シタニ止マル、即チ續經濟學研究所收「祓除と貨幣の關係」ヲ參看アリタシ)。

——(未完)——